VACUUM TUBE

失われた音を求めて，直熱管アンプ放浪記

845シングル＋211シングル ブレンドアンプ

佐久間 駿 SAKUMA Susumu

序章

聖アンデレ保育園AGAIN

うたごえがやむと
子らがとび出してきた
首からぶらさげた肩カバン
青い園児服

そこは簡素だが厳粛で
慈愛に満ちていた
泣く子を抱きしめている出山先生
園児がすずなりの田中先生
大きな声で給食のおばさん

卒園の日の賛美歌
「また会う日まで」
口遊めば今でも涙ぐむ
だが記憶の中のアンデレは
色褪せていくばかり
こひつじ館と共に

ひくい鉄柵のむこうに
まぎれもない時があった
あの頃

聖アンデレ保育園とは，日本聖公会横浜教区館山聖アンデレ教会が運営する保育園だ．かなり古くから館山は北条地区に根を下ろし，信徒の数も多く，館山近在における名門の教会である．

わが家から数分の距離にあり，子供3人，孫3人，2歳近くになると2年ほどそこで世話になり，その後幼稚園に上がるというのが，我が家の子供教育の一環と言えるだろう．

さて，本題に入ろう．

詩中に使われている「また会う日まで」だが，卒園の日には，当時この賛美歌が歌われた．45年も前の記憶なので定かではないが，園児が合唱したのか，それとも先生のオルガンの演奏だったのかもしれない．

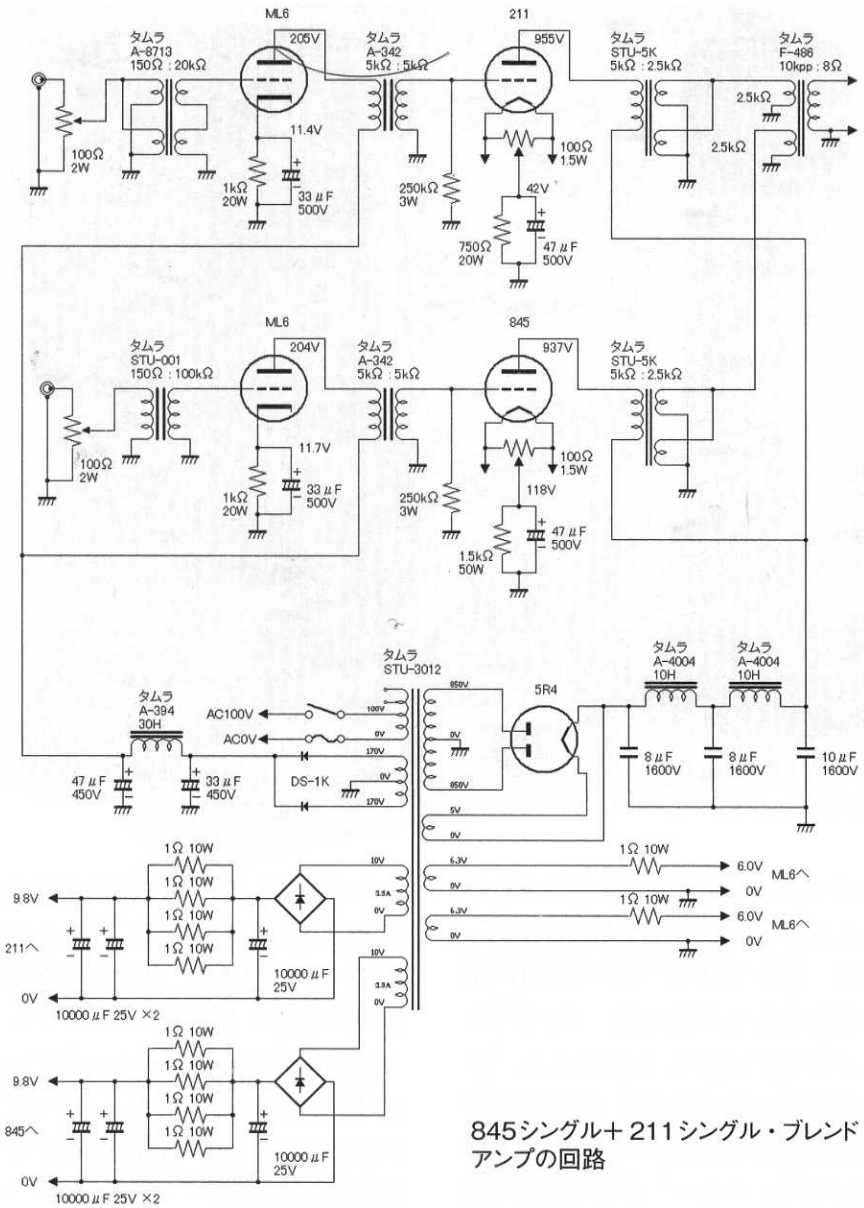
この曲，後に石原裕次郎と浅丘ルリ子が共演した『夜霧のブルース』というヤクザ映画で使われていた．

裕次郎扮するヤクザ者が，浅丘ルリ子がオルガンを演奏する名曲喫茶にたびたび現れる．自分目当てかと浅丘ルリ子が怖がるのだが，実は彼女がオルガンで奏でるこの「また会う日まで」を聴くのが目的だ．

裕次郎扮するヤクザ者は，幼い日を満州で過ごし，日曜のたびに母親に連れられ教会に出向き，この曲を聴いて育った．かつてはそれなりのちゃんとした家庭だったのだろう．戦争で親兄弟を失った引き揚げ者だった．

浅丘ルリ子が弾くオルガンに母の面影を偲び連日，この名曲喫茶に足を運んでいたのだ．やがて二人は恋仲になり，裕次郎は足を洗って沖仲仕として正業につき幸せな日々を過ごすのだが，デモ封じに会社がやとった輩が放った銃弾が浅丘ルリ子を貫き，死に至らしめる．ここから先は裕次郎得意のアクション映画となり，手鉤を手に裕次郎が会社に乗り込み，見事，女房の復讐を果たし，自分もあえなくそこで果ててしまう．

ヤクザ者を演じる裕次郎が，バーのカウンターでギターを爪弾きながら「夜霧のブルース」を口遊むシーンがとてもよい．この昭和歌謡の名曲「夜霧のブルース」．か



845シングル＋211シングル・ブレンドアンプの回路

エリック・サティの旋律を背に
シネマはモノクロのままに映し出す
男が自らの手で旅立つ
四十八時間を

2013年極月
風吹き荒び
夜半ハンク・モーブリーを聴く
FIN DE L'AFFAIRE（情事の終り）

『鬼火（Le Feu follet）』ルイ・マル監督，ジャンヌ・モロー，モーリス・ロネ主演　フランス映画　1963年公開

845シングル＋211シングル・ブレンドアンプ

アンプの概要

本機の原形は2年前に遡る．50と300Bをブレンドさせたアンプが2011年の暮れにすでに陽の目を見ている．このアンプ，翌年5月と10月のコンコルドにおけるヒアリング会で使用し，多くの方から支持を得たので，MJ誌に発表する機会は何度もあったのだが，あえて遠慮した．その理由は50と300Bのアンプ2台をひとつにする整合トランスが問題だったからだ．トランスの性能がどうこうではなく，かなり古い時代の作品でタムラ製作所のカタログからはすでに外されて久しく，特注扱いで一般的でなく，タムラの総代理店サン・オーディオをもってしてもて確保することが難しいと考えたからだ．

だが，100THラインイコライザーアンプとバッテリーを組み，樽入りローサーを見事なまでにドライブする，その再生能力にはただならぬものを感じた．

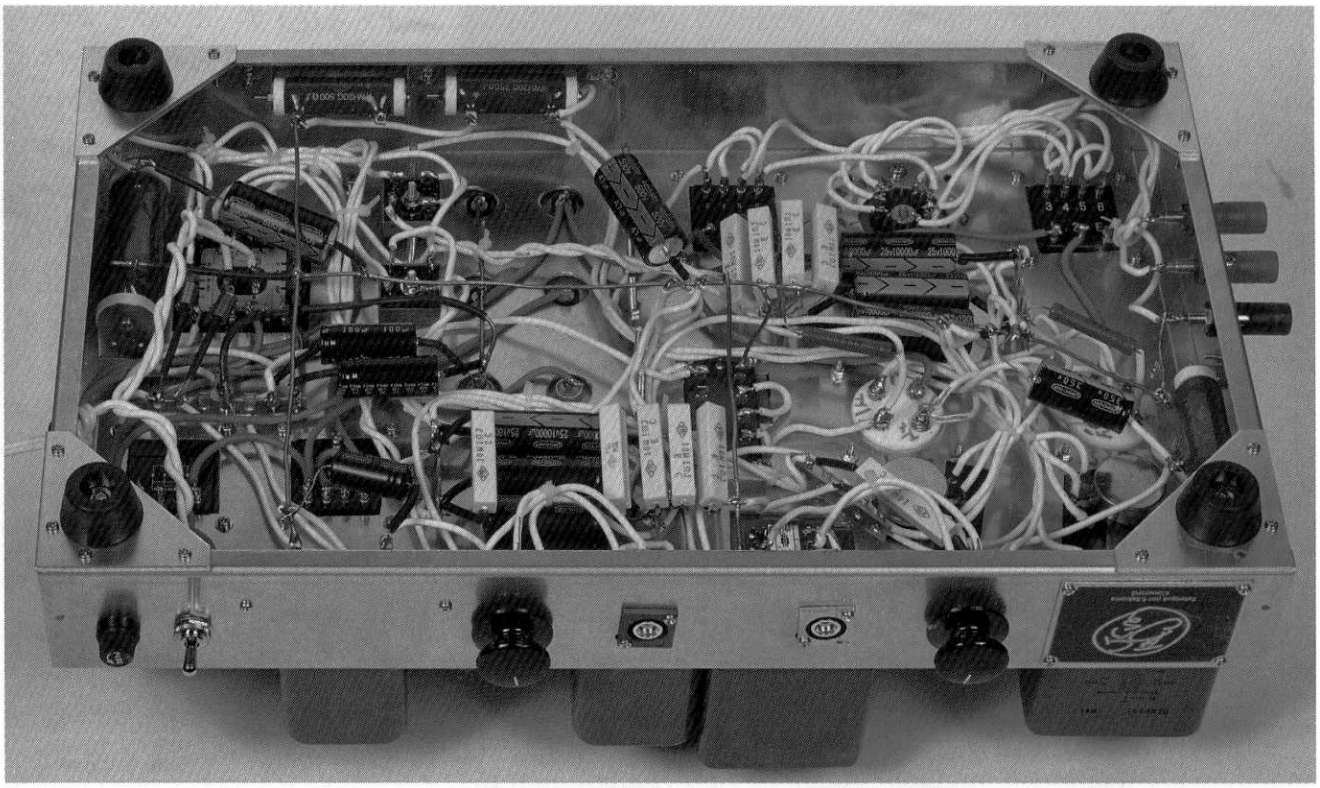
ただ単に，異端を誇示した作品ではなく，50と300Bという類稀なる2本の名管を，ボリュームの加減でいかようにも好みの音にブレンドできるという自分の発想に密かに酔いしれた．しかし，特殊な整合トランスに代わる簡単に入手できる現行品を使用したブレンドアンプの発想に手間取り，2年近くがすぎていった．

2013年7月に肺気腫で鴨川の亀田病院に入院するはめになった．検査のため胸部に穴を開け，ドレーンを繋ぐという前日のことだ．Kタワー7階．通称K7の病室でタムラのカタログを見ていた．出力トランスのページで1次側が10kΩプッシュプル，2次側が0-4-8-16ΩのF-486というトランスが目にとまった．巻線図を確認すると1次側10kΩppがスプリット構成になっている．

そのときだ．久方ぶりに手動式コンピューターがうなりをあげて始動した．

845と211のそれぞれの負荷にSTU-5Kを使用する．各STU-5Kの2次側はパラって2.5kΩ出力とする．

一方受けのF-486の1次側は，スプリット構成にして，2.5kΩを2回路作ってやる．そうすれば，STU-5Kの出力とドンピシャリで



シャシー隅に配したホウロウ抵抗の間に，アース母線を枝ぶりよく配線．抵抗とコンデンサーは直近でアース母線に落とす

側をひとまとめにして接地する．

信号部のアースは入力トランスA-8713のあたりにラグを立て，出力端子からアース母線を引き，そこにつなぐ．信号部の接地はそのラグで行うことになる．入出力のマイナス側，カソード抵抗，グリッド抵抗，パワートランスを除くすべてのトランスのマイナス側はアース母線に接続する．

シャシーならびに，そこに接するラグはよく磨くこと．これはS/Nを稼ぐ上でも重要なことだ．

ヒーター回路

845と211のフィラメントはDC点火した．1Ω/10Wのセメント抵抗を4パラにして，その前後を30000μという大容量のコンデンサーでかためた．ML-6のヒーターは電圧が高めなので，1Ω/10Wの抵抗で6Vジャストに調節した．

［部品入手先］
トランス，シャシー，小物：サン・オーディオ
真空管：クラシックコンポーネンツ，富士商会
ソケット：山本音響工芸
入出力端子：音（ON）

試聴記

アルテック同軸2ウエイ925-8Bを友としての試聴だが，S/Nは完璧だ．前回KT88 2チャンネルアンプのときには，あまりS/Nがよくなかったので，今回は部品配置，ワイヤリングなどにおいて万全を期した．その効果が顕著に現れたアンプかと思う．

ラインアンプはCDの両チャンネルをA-351でモノーラルに整合し，その出力をVL-SSに入力する．そしてVL-SSの出力をデノンのDATの録音端子に入れ，ヘッドフォン端子よりアンプに入力するという方法だ．DATをラインアンプの代用としている．

昭和歌謡から吉幾三の「雪国」，石川さゆりの「津軽海峡・冬景色」，「能登半島」．近ごろ好んで聴く曲だ．日本語という言語の美しさをしみじみ感じさせる名曲だ．ジャズヴォーカルを3曲．ジョニー・ハートマンの歌う「思い出の種」，「セプテンバー・ソング」，そして日本でのライブから「マイ・フーリッシュ・ハート」．彼のベルベット・トーンの再生音．語るすべがないほどのできだ．

続いては，マル・シリーズを1から4まで聴いてみた．まずは『マル-1』から「イエスタデイズ」と「ディーズ・ジレンマ」．多くの方が「イエスタデイズ」を褒め称えるが，僕は「ディーズ・ジレンマ」に軍配を上げたい．この曲の持つ哀愁とエナジーにはただならぬものを若いころから感じていいたが，それは今現在も微塵も変わっていない．ジジ・グライスのアルトもよいできだが，アイドリュース・シェリーマンのトランペットが絶品だ．

MJ REVIEW

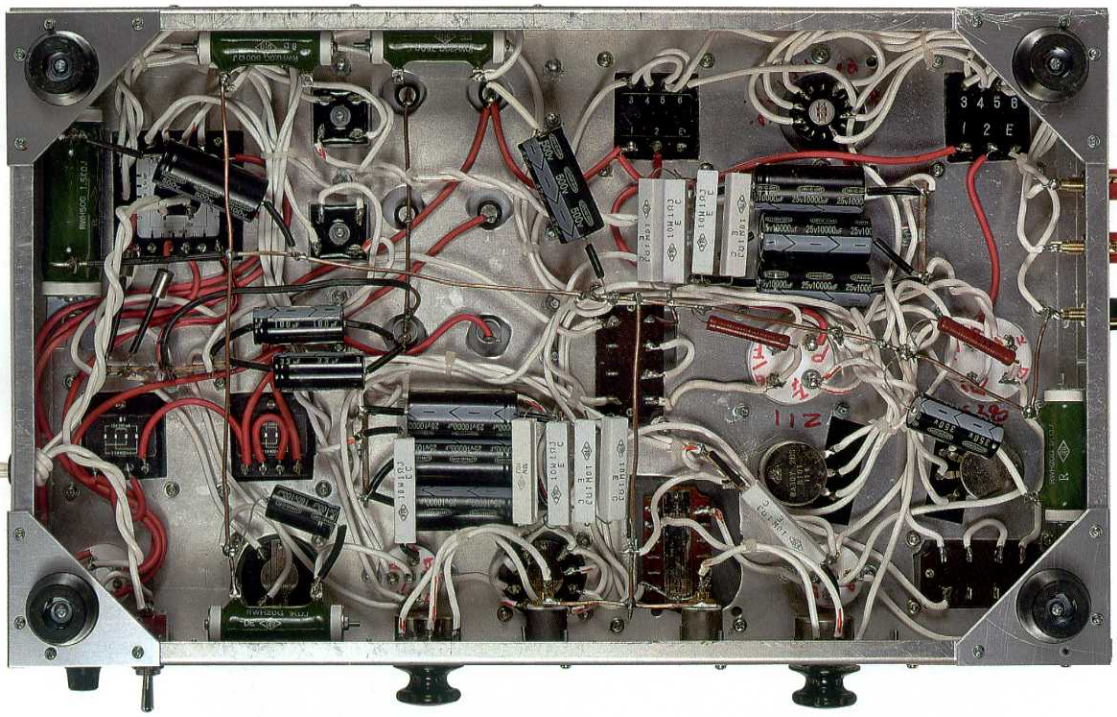
製作記事は84ページより

トランス結合3極管ドライブの211シングルアンプと845シングルアンプの出力を，それぞれトランスで2.5kΩにインピーダンス変換し，1次インピーダンス10kΩでスプリット巻線のプッシュプル用出力トランスに接続することで，2種類の出力管の音をブレンドでき，そのバランスも調節できる，ユニークなアンプ．出力は6Wと小さいが，フィラメント電源に充分な容量の平滑コンデンサーを投入してS/Nを確保し，ジャズからクラシックまで，あらゆるジャンルの音楽を，これまでにない次元で再現する．

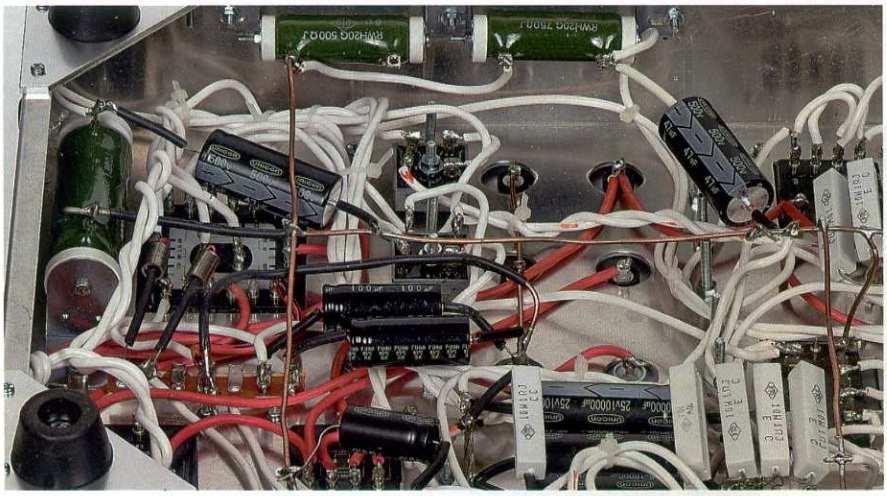
ML6ドライブ，オールトランス結合

845シングル+211シングル・ブレンドアンプ

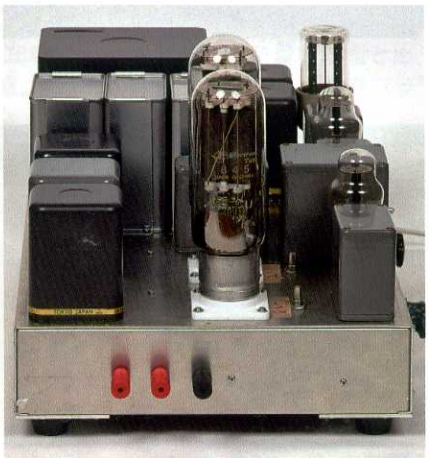
佐久間　駿
SAKUMA Susumu



幅500mm，奥行300mmの大型アルミシャシーに，2台の真空管シングルアンプを搭載した構成．配線材はAC100V用コードを割いて使用



アース母線はホウロウ抵抗を結んで配線．211と845のB電源系配線はベルデンの高電圧用配線材を使用する



スピーカー出力端子は左側板に配置．211と845のソケットは，山本音響工芸のテフロン製を採用